町医者だより

平成28年02月号

＜発行・お問合せ先＞
おおわだ内科呼吸器科
院長　大和田　明彦
市川市南八幡４－７－１３
ｼｬﾝﾎﾟｰﾙ本八幡２階
ＪＲ本八幡駅南口(シャポー改札口)
２分ミスタードーナツ並び
ヘアサロンAsh向かいビル2階
電話０４７-３７９-６６６１

おおわだ
内　科
呼吸器科

ロイコトリエン受容体拮抗薬

ロイコトリエンB4は単球や好中球を刺激し、ロイコトリエンC4は気管支平滑筋の収縮や血管の透過性亢進に関与し、共に喘息の炎症の持続に関連します。ロイコトリエン受容体拮抗薬は当初喘息治療薬として、後にアレルギー性鼻炎(特に鼻づまりを伴う)に適応拡大された薬剤で、日本ではオノン、シングレア、キプレスがあります(シングレア、キプレスは名前が異なりますが全く同じ薬剤です)。実はもう一つアコレートという薬剤があったのですが、重篤な肝機能障害の報告があったかして販売が中止されました。2月12日の金曜日の夕方、患者さんには迷惑な話ですが、午後の外来を早めに切り上げてさせて頂きました。世界的にも著名な呼吸器科医であるイギリスのピーター・バーンズ先生の少人数の講演会に出席するためでした。今回はロイコトリエン受容体拮抗薬の話です。

バーンズ先生の意見

講演会に出席したかったのは、実は質問したいことがあったからです。今から5－6年前に先生の講演を聴いたときに、ロイコトリエン受容体拮抗薬なんぞはイギリスでは使用していないと話していたからです。その事がすごく印象に残っていて「5－6年前の講演会で先生はロイコトリエン拮抗剤は薬価が高いし効かないので使用しないといっていたが本当か」と今回改めて質問しました。「イギリスではジュネリックが出ているが(日本ももうすぐ発売されます)効果が無いので使用していない。製薬会社もイギリスでは積極的な販売促進すら行っていない」との答えでした。さらに私が「日本では、小児科の医師の大部分は、いまだに喘息治療の第一選択薬としてロイコトリエン受容体拮抗薬を使用しているが・・・」と言うと、先生は「小児に対しても吸入ステロイドを使用すべきである」とお答えになりました。

ロイコトリエン受容体拮抗薬は本当に効かないのか？

Annals of Internal Medicine誌の2015年11月号にロイコトリエン受容体拮抗薬が12歳以上の子供や成人の軽症喘息患者さんに効くかどうかの総説が掲載されています。過去に論文として発表された50の臨床研究をメタ解析しているのですが、ロイコトリエン受容体拮抗剤は、呼吸機能改善、急性増悪の抑制がプラセボ(偽薬)より有意差を持って認められる(もっともこれがなければ薬として使用する意味はありません)。しかしながら、先行する吸入ステロイド治療にロイコトリエン受容体拮抗薬を追加しても、1秒量の量の改善はあるが、1秒量を%予測値で比較するとロイコトリエン受容体拮抗薬を加えても統計学的に有意差な改善はありませんでした。またロイコトリエン受容体拮抗薬を追加しても急性増悪のさらなる抑制効果を認めませんでした。すなわち、ロイコトリエン受容体拮抗薬がある程度効果があることは確かに認めても良いのですが、吸入ステロイド治療がすでに最大限の効果を持っているため、ロイコトリエン受容体拮抗薬を追加する意味があまりないのかもしれません。

ロイコトリエン受容体拮抗薬は安全なのか？

2015年のIran J Pediatr誌に副作用に関する報告があります。服薬者の約4%に副作用があったとの事です(これは少なくはないと思います)。精神症状として「多動」が、非精神症状として「腹痛」が副作用として多いようです。